

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	通信会社（営業担当）	・新商品発売もあり、販売は好調に推移する。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・北陸新幹線開業に向け、主だったホテルや飲食店は改装などに注力しており、その効果も出始めている。あるホテルでは、来客数こそ減少したものの客単価が大きく上がったので利益は前年を上回ったとのことである。
		百貨店（営業担当）	・今までのように全体的に悪いところから、生活密着商品や食品といった物の動きが、かなり良くなってきている。ぜいたく品と言われている一般的な高額品についても、下げ幅が2割程度から1割程度に戻っていることから、この先については、全体的に前年を少し超えられるような消費傾向があるとみている。
		百貨店（営業担当）	・秋を意識した商材の動きは、8月半ばあたりから始まったため、既にそういった商材の動きが良いことから、客の購買意欲がこのまま続けば、状況は良くなる。
		スーパー（店長）	・今は価格が安い商品と、おいしいものを食べたいという客のニーズが、非常に混在している。その中で、当店では今後も少しでも良いものを提供していくことで、客のニーズに合っていくのではないかと考える。
		乗用車販売店（経営者）	・各社新型車を発表してきたので、市場は今よりは動く。
		スナック（経営者）	・国内や国際的にもマイナス要因が起きると、現状が変わったりもするが、忙しいところに期待して現状よりも良くなると思う。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行の受注量は前々年、前年を上回っているが、個人客がまだまだ戻ってきていないので、個人客が戻ってくることを期待している。
		通信会社（役員）	・消費税増税が家計に与えた緊縮マインドもようやく薄れつつあり、通信サービスの新規獲得件数も今後、順調に増加していくと期待している。
	住宅販売会社（経営者）	・消費税率10%への増税を前にして客が動いている。	
	住宅販売会社（従業員）	・土地や建物の問い合わせが増えつつあるため、成約に向けて期待したい。	
	変わらない	商店街（代表者）	・涼しくなる時期次第で動きが変わるが、大きな変化は期待できない。
		商店街（代表者）	・秋冬ものが先行して売れ始めているのは明るい話題だが、昨今はメーカーのリスク回避で在庫も少なく、リピート生産をするまでの景気の勢いもないため、売れ筋商品は品薄状態である。売上増とまではいかないだろう。
		商店街（代表者）	・消費者には経済の先行きに不安感があり、少しでも将来に備えようという意識があるようだ。そのため、生活に必要なものは購入するが、不要なものは買い控える傾向にある。ただし、最近は食品関係の問題があったことから、消費者は少し高くても安全、安心なものを購入するようになってきている。全体の景気状況、販売状況は、あまり変わらない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・気象状況が悪い中、それなりに売上はとれている。今後も気象状況によって突発的な要素はあると思うが、購買意欲は衰えないと思われることから、それほど景気は左右されないのではないかと考えている。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・売上見込件数が横ばい傾向である。時期的に売上は良くなるかもしれないが、継続が見込めない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・今より悪くもならないし、良くもならない。
		百貨店（売場主任）	・平年並みの気温で推移した最終夏物商戦も一段落し、秋物商材へとシフトしていくが、ライフスタイルの大きな変化に乏しい。景気回復への期待感はあるが、原材料の高騰など、市場価格が上昇傾向にあり、単価が上昇する一方で、販売点数のダウンが想定される。
		スーパー（店長）	・いくぶんかは、客の買上単価が上がりつつある。しかし、今年の天候状況が悪く、農産物を中心に高値傾向が続いていることから、客の日々の買物がより慎重になっている。状況はさほどの変化はないと考える。
スーパー（総務担当）		・必要なものしか購入しない節約志向は今後も続く。	
スーパー（総務担当）		・来年の新幹線開通に期待でき、大きな不安要素がないことから現行の流れが続くと思われる。	

スーパー（統括）	・3か月後の状況は大きく変わらない。好転する要因もマイナスの要因も、今は見あたらない。その中で、売上高を大きく左右するのは、やはり天候によって青果物価格がどうなるかということである。全体としては、肉や魚などの生鮮品については、現在好調に流れていることからこのまま維持しつつ、一部青果物の動きによって変わってくるとみている。
スーパー（店舗管理） コンビニ（経営者）	・景気回復の要素が見当たらない。 ・中国産の鶏肉偽装問題も、当社についてはすべて国産でまかなうということが決まり、その方向でも良くなってくるとみられる。今月は天候不順の影響があったものが、少しは解消されてくるのではないかと思われる。そう考えれば、悪くなることはないのではと考えている。
コンビニ（店舗管理）	・燃料費や食材等の原材料価格の値上がりが利益を圧迫する。しかし、本年度の米の価格は数年前の安価な水準に戻ることが予測され、こまごまとした原材料価格の値上げをすべて打ち消してくれると期待している。
衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（経営者）	・衣料品に関しては今後も好転の兆しはなく、苦しい状態がしばらく続きそうである。 ・現状は円安、ガソリン高、天候不順、収入が増えないなど悪い状況であり、なかなか景気が回復しない状況が続くと思われる。医療費用や保険負担を始めとする価格上昇を止め、収入を増やす方策を考えないと現状を打開できないと思っている人が多いようである。当地としては、新幹線開業の波及効果に期待している。
家電量販店（店長）	・売上が伸びるような変化はみられない。12月も苦戦しそうだ。
家電量販店（店長）	・消費税増税の影響がまだ続いている。故障してからの買い替えが多く、現在利用している物に不満があっても我慢して使い続ける客が多い。特に携帯電話などのデジタル商材の実績が低迷している。
乗用車販売店（従業員）	・新規の来客が減っており、良くなる要因があまりない。
乗用車販売店（役員）	・前年は消費税増税に伴う駆け込み需要があったため、比較すると大変厳しい数字になるが、各社新型車投入等の予定もあり、これまでよりは好感触が得られる市場になるとみている。
自動車備品販売店（従業員）	・スタッドレスタイヤの市場需要は前年比で増加すると予測されているが、例年と比べて動きが遅く、前年の暖冬も含め、買い控えも予想される。
住関連専門店（店員）	・消費税増税後の買い控えは緩和に向かっていると考えるが、反面、家計に占める固定費が増加傾向にあることを考慮すると、趣味や娯楽等に使える変動費の割合も低下し、耐久消費財への反動は継続することが予測される。
その他専門店〔酒〕 （経営者）	・とにかく、今後状況が良くなる兆しはみえない。世間では良いところもあるかもしれないが、私たちに影響が回ってくるには、まだまだかかるのではないかと思う。状況が良くなると言える日がきてほしいと思っている。
その他小売〔ショッピングセンター〕	・引き続きガソリン代、電気代などの生活コストが高いままであり、消費、景気的好循環を期待するがまだまだ実感がない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ガソリン価格の上昇もあり、販売量が好転する要素が見当たらない。
一般レストラン（店長）	・一本調子の方向性はみえず、一進一退である。
観光型旅館（経営者）	・秋の観光シーズンに向けて大型団体の受注に成功している。
都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン部門の売上の動きが弱い。天候不順により、野菜を中心に仕入価格も高騰しており、消費者心理にも影響すると考えている。来年の更なる消費税増税決定が、年末にかけて消費行動への悪影響をもたらすことも心配している。
旅行代理店（従業員） タクシー運転手	・しばらくは客の様子見が続く。 ・特別な変化もなく、利用客数も増える要因がないことから、大きな変動がなく変わらないとみている。
通信会社（営業担当）	・夏のボーナス商戦に期待したが、大きな変化がみられなかった。ここ数か月、販売量は横ばいの状況が続いており、今後景気動向に変化がみられるとは考えにくい。
通信会社（役員）	・2～3か月先に特段状況が変化するようなイベントや要素が現時点ではない。
その他レジャー施設 （職員）	・今年度に入ってから売上が伸びておらず、客が秋に向けての販促に反応するかどうかが読めない。

		美容室（経営者）	・地方では給料がアップしたという話はあまり聞いたことがなく、景気は現状のままで推移すると考える。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数の伸び悩みを勘案した場合、今後の対応策いかなではあるが、来年の消費税率10%への引上げを見据えた時の受注額がどちらへ振れるのか、見極めが難しい。仮に良い方に振れても今の受注額を確保するのが精一杯であるとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・次回の消費税増税に伴う駆け込み需要は想定ほどではないと感じており、今後も期待できそうな雰囲気がない。消費者の価格に対する厳しさはますます強くなっており価格と品質を選ぶ目にどれだけ企業が合わせられるかがより問われそう
		住宅販売会社（従業員）	・契約を締結できても、値引き等で厳しい内容となることが予想される。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・消費税増税後、店全体が思うように前年売上を達成できず、全体的に悪い状況のなか、今後ももう少し買い控えが発生すると思われる。
		コンビニ（店長）	・8月が不景気の下げ止まりと感じたのは、8月全体の売上の中で盆明けの客足が極端に下がる時期に、前年より下がらなかったのが最大の原因である。ただ、盆前の客足や、常連客の給料日が集中する月末の客足を見ていると3か月前とそんなに変わった印象がなく、景気が良くなるようには感じられない。
		衣料品専門店（総括）	・物価全体が上がっているなかで、客が衣料に使える金額が減少している。
		高級レストラン（スタッフ）	・市長の突然の辞職により10月5日に市長選が行われることになったが、選挙があると会合や接待が減るので売上が厳しくなることが予測される。
		一般レストラン（統括）	・物価の値上がりにより今春の消費税増税が重なり、少しずつ割高感を感じるようになってきた。現在も買物に対し必要なものと不要なものを選択する消費者の目が更に厳しくなってきたと感じる。よって売手側は原価上昇を販売価格に転嫁できない状況である。
		観光型旅館（スタッフ）	・3か月前までの予約仕入の伸びが弱い。その結果予約保有は8～9月が前年同月比90%で推移している。10月以降は今のところ前年比101～110%で推移する見込みである。
		都市型ホテル（役員）	・コンベンション関係が北陸新幹線開業後に移行しているため、状況はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・当地の大きな祭りが今年は平日開催であることから、人出が少なくなるとの見込みである。
		通信会社（職員）	・規制緩和による異業種から競合参入が見込まれる。
		テーマパーク（職員）	・先行の予約状況を見ると、やはり秋の団体シーズンについてもバス料金の値上げの影響が、前年同月と比べ予約が1割近く減少している状況である。また、5月まで好調だった海外からのインバウンドの予約や問い合わせについても、ここきて少しブレーキがかかっている状況にあり、むこう3か月については団体を中心に、やや悪くなる傾向にある。
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・2年ほど前に競合店が出店したが、8月末日にも競合店がオープンとなり、3大チェーンのそろい踏みになることから、ますます厳しい状況になる。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・国内景気の回復及び輸出が多少増えそうなこともあり、アベノミクス効果が地方の中小企業にも到達することを期待している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・国内市場は補助金が採択されたユーザーなどからの引き合いもあり、今後も期待できる。
		金融業（融資担当）	・足元がボトムとの考えがベースにあるが、10%へのさらなる消費税増税の決断をする時期に向けた、相応の経済対策も期待されることから、状況はやや良くなるとみている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・来春の受注状況は前向きな動きがみられる。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・消費税増税の好影響は既に終わっており、この業況は今から半年以上続くともみている。	
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月前先の注文の入り方から、状況は変わらないとみている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・為替も安定しており、海外からの需要は、現状どおりおおむね順調に推移していくとみている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・引き続き、特に一般店や中小店からの販売は厳しい状況が続いているようで、景気が上向きになる要因や確信がまだ見つからない状況である。	

		建設業（経営者）	・手持ちの官庁工事、民間工事とも、年末工期の工事の完成に向け忙しくなるであろうが、資機材不足、材料運搬車両不足、交通誘導員不足、専門工事業者の確保難などの要因から、工程遅れによる採算の悪化が懸念される。
		建設業（総務担当）	・当面は業界全体の施工能力に余力が少ないことから、受注価格競争は緩和状態が続き、現状維持で推移する。
		輸送業（配車担当）	・今後急激に景気が上向きになるとは思えない。
		通信業（営業担当）	・当社は通信機器の保守をターゲットに販売取組をしているが、万が一の時の保険といっても余裕がないのが実態である。プラスアルファの商品が好転するのはまだ先のことのように思える。
		金融業（融資担当）	・景気が拡大する方向性だとは思いますが、個人消費がやや足踏みしている報道や統計も一部みられる。
		不動産業（経営者）	・法人、個人を問わず期待感があつたが、客からの問い合わせが少ないという話が多い。
		司法書士	・新しい事業の動きがあっても社会福祉関係、医療系、既存の設備の拡大といった限られた分野でしかない。
	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・今後は販売量の減少に加え、輸入原料の上昇やエネルギーコストの上昇など、収益力を圧迫してくる要因が増えており、一層厳しい状況が続く。
		税理士（所長）	・客の動きをみていると、デフレ的な心情からくる取引価格の決定が多くみられる。値下げや円高、円安による材料費の値上がりで、どうしても人の価値、付加価値に対してなかなか価格がつけられず、給料が上げられない。負のサイクルが中小企業の現場でもみられるので心配である。
	悪くなる	新聞販売店〔広告〕 （従業員）	・業種問わず、チラシの出稿量が落ちている。特に住宅、不動産関連のチラシの出稿落ちがいつまで続くのか、見通しがつかない状況である。
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 （編集者）	・新幹線開通に伴う駅前周辺の求人が増えそうである。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年比で3か月ぶりに増加したため、今後についてもやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・求職者側の派遣システムへの関心度が依然として薄れている。登録者件数が減少している。
		人材派遣会社（社員）	・この先も求人数の大幅増加に対し求職者数は減少しており、有効求人倍率の上昇傾向は続きそうである。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・企業の求人意欲の高さは感じられるが、求人広告の増加にはつながらない。今後もこの状況が続く。
		職業安定所（職員）	・材料費、燃料費高騰の影響により利益が少ないとの事業所の声が依然としてある。
		職業安定所（職員）	・サービス業からの求人が多いが、全体的に求人の動きは落ち着きつつあるため、今後も状況は変わらないとみている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・人材派遣や人材紹介を希望する応募者が減り、人材採用に苦慮している。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	